

持っている物すべてを神に与えなさい

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

(ローマ12・1)

祈りの最中に、主に次のような質問をしました。「祈るとき、私にとって一番大切なことは何でしょう。霊的成長に最も有益なことは何でしょうか。すると、最も完成された捧げ物は、私たち自身を「生きた供え物」として捧げることだというパウロの教えが心に浮かびました。もし、神が余すところなく私の内に住んでくださることが私の願いだとすると、そのことにまず着手すべきでしょう。それこそが、パウロが言う「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」(ガラテヤ2:20)というアイデンティティーを自分のものにする唯一の方法です。

黙想の祈りとは、霊的形成の祭壇に自分自身を置き、私たちの内に必要なものすべてを造る許可を神に与えることです。私たちの意志や決断する権利を主に明け渡します。私の祈りは、生きた供え物として日々聖霊に自分自身をゆだねることです。いったんこの祭壇に私のいのちを置くと、それは私のものではなく、主のものであり、主に受け入れられることをします。

パウロによると、神はそのような自ら捧げられたいのちを「聖く、神に受け入れられるもの」としてご覧になります。これは、イエスが地上におられた間、模範とされた天の父との関係であり、私たちにも見習うよう求めておられます。私たちのいのちを神への供え物として絶えずお捧げするとき、確かに私たちの内で生きておられるキリストを経験し、成長していくことでしょう。

質問：

- 1 祈りの中で神への生きた供え物となることは、私たちにとって何を意味していますか。それは、私たちに何を求めますか。何が求められていませんか。
- 2 パウロが言うように、「私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」(ガラテヤ2:20)と言えるようになるには、どのような内面の状態が求められていますか。
- 3 黙想では、「いったんこの(祈りの)祭壇に私のいのちを置くと、それはもはや私のものではなく、主のものであり、主が受け入れられる事をする」と書いてあります。私たちの祈りの経験において、それはどれほど忠実なものですか。祈りの中で自らのいのちを捧げた後、私たちはどのような方法でそれを取り戻しますか。

祈り：あなたの祈りの中で、服従を表す「聖く、受け入れられる」捧げ物について考えてみてください。このような方法で、さらにあなた自身を神に捧げる願いが心から与えられるように、聖霊に願ってみてください。